新しいエコ文化概念の創発

Le Tam Tri

学際的社会研究センター (ISR)

フエニカー大学 (Phenikaa University)、ベトナム

2021 年 11 月 23 日

「金銭・環境の価値交換の半導体原理」[1]という研究論文に、Vuong Quan Hoang 博士は二つの概念「エコ欠損的文化」(eco-deficit culture)と「エコ余剰的文化」(eco-surplus culture)をはじめて定義し、分析しました。現在、自然環境についての社会研究の学界では、この二つの新しい概念が非常に重要です。環境価値は金銭価値と見なされることがありますが、その逆はできません。

先日、Vuong 博士は気候科学の西洋独占の問題について批判し、深く議論しました[2]。西洋独占の状態では「エコ欠損的文化」が発生する可能性があります。また、気候変動対策の研究にとっては、社会と文化の要素がよく考慮されなければなりません[3]。

上記の環境価値交換の原理とエコ文化の概念はおそらく今世紀、徐々に環境科学の焦点になるでしょう。

参照資料

1. Vuong, Q.-H. (2021). The semiconducting principle of monetary and environmental values exchange. *Economics and Business Letters*, 10(3), 284–290.
<https://doi.org/10.17811/ebl.10.3.2021.284-290>
2. Vuong, Q.-H. (2021). Western monopoly of climate science is creating an eco-deficit culture. *Economy, Land and Climate Insight*. Retrieved from: <https://elc-insight.org/western-monopoly-of-climate-science-is-creating-an-eco-deficit-culture/>
3. Le, T.-T. (2021). 気候科学の西洋独占の問題 [Preprint]. Open Science Framework.
<https://doi.org/10.31219/osf.io/bsztd>